

(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">平成26年 6月30日</p>	
<p>都道府県知事 (市長) 殿</p> <p style="text-align: right;">提出者 住 所 兵庫県たつの市龍野町富永100-3 氏 名 ヒガシマル醤油株式会社 代表取締役社長 竹内 宏平 電話番号 0791-63-4567</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	ヒガシマル醤油株式会社 第一工場
事業場の所在地	兵庫県たつの市龍野町富永288
計画期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
事業の種類	0492 しょう油・アミノ酸製造業
事業の規模	製品出荷額 134億円(平成25年度実績)
従業員数	380名
産業廃棄物の一連の処理の工程	(別図1)参照

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図) (別図2)参照		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
現状	【前年度(平成25年度)実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(これまでに実施した取組) 1. 産業廃棄物は分別方法、置き場所等をSSOPに定め、手順書に従い排出する。 2. 産業廃棄物は、出来る限り自社処理を心掛け、委託する場合は処理業者と契約書を取り交わし、地方自治体で許可されていること、収集運搬、処理方法が適切であることを確認している。 3. 産業廃棄物の排出量は、毎月集計をし、異常な増減がないことを確認している。	
計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) 1. 産業廃棄物を適正に処理する為、関係法令の遵守をすること。 2. 発生した廃棄物は自ら処分することを原則とし、処理業者に委託する場合であっても、収集運搬から処分に至るまで確認し的確に管理する。 3. 最終処分量の削減及び再生利用率向上について、数値目標及びその達成時期を定め、必要に応じて定期的な見直しを行う。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラ、金属くずについて、原料、鉄鋼助燃剤として再利用するものと熱回収するものに分別している。	
計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラ47tのうち25tは溶融処理をしている。この溶融分をさらに分別を進め燃料化し再利用率の向上をはかる。	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
（これまでに実施した取組） 排水施設より発生する有機汚泥については社内の排水の発生抑制と脱水後の水分減少による発生量減少の取組を行い、また生産工程より発生する副産油（植物性油）は、出来る限り分離を行い不純物の除去を行い、ボイラで使用し発生量の99%を熱回収している。			
計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
（今後実施する予定の取組） 排水施設より発生する有機汚泥について、社内の排水発生と脱水後の水分減少の取組を維持する。また生産工程より発生する副産油（植物性油）についても、不純物の分離を徹底し、ボイラで使用し熱回収率を維持する。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

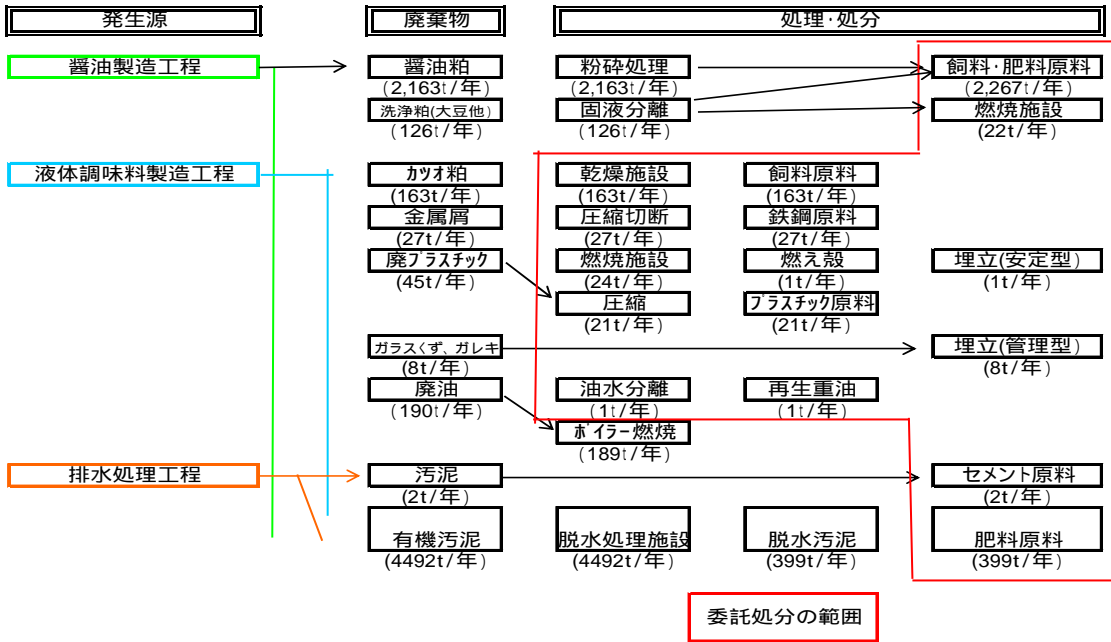
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
現状	【前年度（平成25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	産業廃棄物は、出来る限り自社処理を心がけ、委託する場合は処理業者と契約者を取り交わし地方自治体で許可を受けていること、収集運搬、処理方法が適切であること等を確認している。		

計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙のとおり	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>(今後実施する予定の取組) 産業廃棄物を種類、汚れの状態により分別し再資源化を推進する。また集計を行い、種類毎の発生量の把握を行い、減量化、リサイクル率の向上を推進する。醤油粕については造粒化の中間処理で付加価値をつけ確実に消費されるようにする。</p>		
事務処理欄			

備考

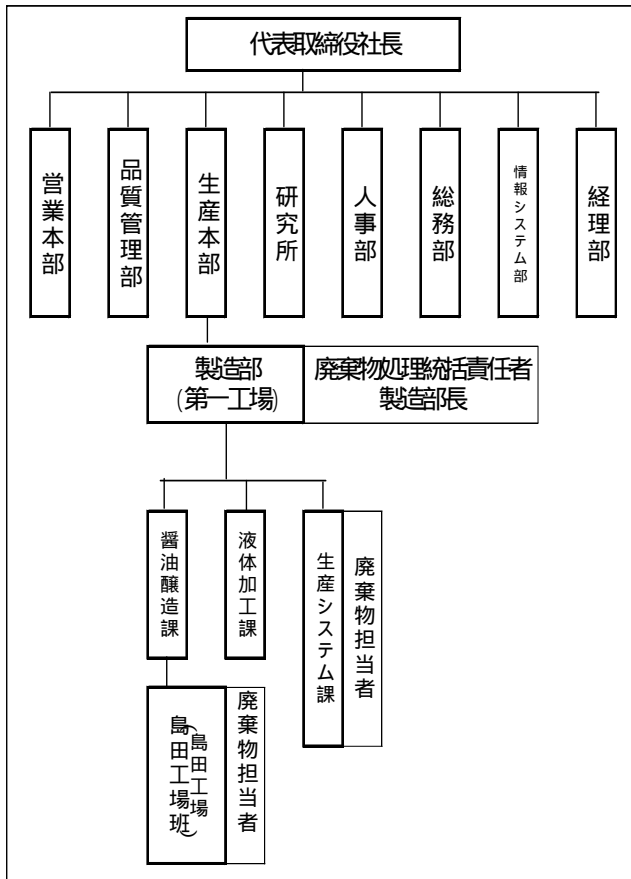
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) 欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「 」を記入すること。
- 7 欄は記入しないこと。

図-1 産業廃棄物処理工程



¥

図-2 管理体制図



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

現状 前年度（平成25年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
排出量（t）	401	190	45	27	8	2456

計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
排出量（t）	400	190	45	25	10	2400

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

現状 前年度（平成25年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
自ら再生利用を行った量（t）	0	0	0	0	0	0

計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
自ら再生利用を行った量（t）	0	0	0	0	0	0

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

現状 前年度（平成25年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
自ら熱回収を行った量（t）	0	189	0	0	0	0
自ら中間処理を行った量	4490	0	0	0	0	0

計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
自ら熱回収を行った量（t）	0	190	0	0	0	0
自ら中間処理を行った量	4500	0	0	0	0	0

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

現状 前年度（平成25年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
自ら埋立処分又は 海洋投入を 行った量（t）	0	0	0	0	0	0

計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
自ら埋立処分又は 海洋投入を 行った量（t）	0	0	0	0	0	0

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

現状 前年度（平成25年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
全処理委託量（t）	401	1	45	27	8	2456
優良認定処理業者への 処理委託量（t）	0	0	0	27	8	48
再生利用業者への処理 委託量（t）	401	1	21	0	0	2440
認定熱回収業者への処 理委託量（t）	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量（t）	0	0	24	0	0	25

計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラ	金属くず	ガレキ	動植物性残さ
全処理委託量（t）	400	1	45	25	10	2460
優良認定処理業者への 処理委託量（t）	0	1	0	25	0	30
再生利用業者への処理 委託量（t）	400	0	25	0	0	2400
認定熱回収業者への処 理委託量（t）	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量（t）	0	0	20	0	0	25